

天 (仏教)

天（てん、梵: deva）は、仏教において、下記の2つの意味がある。

- 衆生が生死流転する六道のうちの最上部にある世界のこと^[1]。天界、天上界、天道など多くの名がある^{[1][2]}。本記事で詳述。
- 1の天界にいる神や、その眷族^[1]。天人、天部、天衆ともいう^[2]。詳細は天部を参照。

目次

概説

六道における天

三界における天

三界における天の分類

脚注

注釈

出典

参考文献

関連項目

概説

上記の1の意味における天は、**天上界**（てんじょうかい、てんじょうがい）^{[1][2]}、**天上**、**天有**（てんぬ）^[2]、**天界**（てんかい、てんがい）^{[3][2]}、**天道**（てんどう）^{[4][2]}、**天上道**（てんじょうどう）、**天趣**ともいう^{[1][5][2]}。原語は梵: deva（デーヴァ）である^[2]。

天は、この地上から遙か上方にあると考えられている^[2]。**五趣**や**六趣**（六道）のうち、天は最も苦悩の少ない世界であり^[1]、最高最勝の果報を受ける**有情**が住む清浄な世界である^{[3][2]}。

六道における天



この節は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。（2017年10月）

天道は、六道の最上位である（この文脈では天道と訳すことが多い）。そのすぐ下位**梵**の住む人道である。

天人は**長寿**で、空を飛ぶなどの**神通力**が使える。また、快楽に満ち、苦しみはない。

ただし、天道はあくまで輪廻の舞台である六道の1つであり、天人も衆生にすぎない。天人は不死ではなく（天人が死ぬ前には**天人五衰**という兆しが現れる）、死ねば他の衆生同様、生前の行いから閻魔が決めた六道のいずれかに転生する。

天人は**悟り**を開いてはおらず、**煩惱**から解放されていない。悟りを開いたものは**仏陀**であり、輪廻から解放され六道に属さない涅槃（浄土、極楽）へと行く。

現在の大乗仏教では人道の下に阿修羅が住む阿修羅道が位置するが、初期仏教では六道のうち阿修羅道がなく五趣とされ、阿修羅は天に住んでいた。

天台宗では六道の上に仏陀が属する仏界などの四聖を加え界とするため、その上から第位が天界となる。

三界における天

三界も六道と同じく、輪廻の舞台となる世界の分類だが、分け方が異なる。三界のうち上の無色界・色界と、最下位の欲界のうち上部の六欲天が、天に相当する。

三界における天の分類

天は上から順に、次のような構造になっている^[2]。これらの天の名の多くは、世界と同時に、その世界の住人をも意味する。また、「○○天」の「天」は省略されることもある。

- 無色界^[2] (無色天、無色界天、四禅定) - 欲望や色 (肉体や五感などの物質的世界) から超越した、精神のみの世界。禅定の段階により4天に分けられる。
 - 非想非非想処天 (有頂天^[2]、非想非非想処、非想天)
 - 無所有処天^[2] (無所有天)
 - 識無辺処天^[2] (識無辺天)
 - 空無辺処天^[2] (空無辺処、空無辺天、無量空処)
- 色界^[2] (色天、色界天、色行天、色界十八天) - 欲望からは解放されたが、色はまだ有している世界。禅定の段階により大きく4つに分けられる。
 - 第四禅天^[2] (四禅九天) बृहत्फल (Bṛhatphala)
 - 色究竟天^[2]^[注釈 1] (阿迦尼吒天)
 - 善見天^[2] - 善見天と善現天は位置が逆になることがある。
 - 善現天^[2]
 - 無熱天^[2]
 - 無煩天^[2] (淨居天)
 - 広果天^[2] - 外道天とする。十八天説では、広果天の上に無想天を立てる^[2]。
 - 福生天^[2]
 - 無雲天^[2]
 - 第三禅天^[2]^[注釈 2] (三禅三天) शुभकृत्स्न (Śubhakṛtsna)
 - 遍淨天^[2]
 - 無量淨天^[2]
 - 少淨天^[2]
 - 第二禅天 (二禅三天) आभास्वर (Ābhāsvara)
 - 極光淨天
 - 無量光天^[2]
 - 少光天^[2]
 - 初禅天^[2] (初禅三天、一禅天) ब्रह्मा (Brahmā)
 - 大梵天^[2] - 梵天が住む。十六天説では、大梵天を梵輔天に含める^[2]。
 - 梵輔天^[2]
 - 梵衆天^[2]
- 欲界 कामधातु (Kāmadhātu) - 欲にとらわれた世界。

- 六欲天^[2]
 - 他化自在天（第六天、魔天）^[2] परिनिर्मित वशवर्तिन् (Parinirmita-vaśavartin)- 天魔が住む。
 - 樂變化天（化樂天）^[2] निर्माणरति (Nirmāṇarati)
 - 覩史多天（兜率天^[2]、兜率陀天、兜卒天、都率天） तुषित (Tuṣita)
 - 夜魔天（焰魔天、第三焰天）^[2] याम (Yāma)
 - 三十三天（忉利天）^[2]^[注釈 3] त्रायसत्रिंश (Trāyastriṃśa) - 帝釈天が住む。
 - 四大王衆天（四王天^[2]、四天王天） चतुर्महाराजिककायिक (Cāturmahārājīkākāyika)

脚注

注釈

1. [↑] 色究竟天から夜魔天までを空居天（くうごてん）とい^釈。
2. [↑] 第二禪天と第三禪天に属する九天は樂生天（らくしょうてんともいう^[2]）。
3. [↑] 三十三天と四大王衆天王を地居天（じごてん）とい^釈。

出典

1. [↑] *a**b**c**d**e**f* “天(テン)とは - コトバンク (https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9-102026) 朝日新聞社 2017年10月12日閲覧。
2. [↑] *a**b**c**d**e**f**g**h**i**j**k**l**m**n**o**p**q**r**s**t**u**v**w**x**y**z**aa**ab**ac**ad**ae**af**ag**ah**ai**aj**ak**al**am**an**ao**ap**aq**ar**as**at**au**av* 総合仏教大辞典 1988, p. 1020-1021.
3. [↑] *a**b* “天上界(テンジョウカイ)とは - コトバンク (https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9%E4%B8%8A%E7%95%8C-578236)”. 朝日新聞社 2017年10月12日閲覧。
4. [↑] “天界(テンカイ)とは - コトバンク (https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9%E7%95%8C-577541) 朝日新聞社 2017年10月12日閲覧。
5. [↑] “天道(テントウ)とは - コトバンク (https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9%E9%81%93-578577) 朝日新聞社 2017年10月12日閲覧。

参考文献

- 総合仏教大辞典編集委員会（編）『総合仏教大辞典』下巻、法蔵館、1988年1月。

関連項目

- 十界
- 十二天

「[https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=天_\(仏教\)&oldid=67523485](https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=天_(仏教)&oldid=67523485)」から取得

最終更新 2018年2月26日 (月) 09:48 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。